



しかるに彼の臨時後援点  
 多岐賞如野野  
 沈黙せしめたるも能く  
 唯日本帝國の爲め懼れ  
 としと懐心信へて聞か  
 始の在りて諸公の天壽  
 人亦固も限りあり諸  
 公百國の彼之をお徳者  
 せざるも水産格せん  
 皆有力元龍と云ふの如  
 貴代の自給群雄中  
 関心希と云ふ治公の如  
 いさよの切實と純固と  
 的は一改良身誨るもの  
 果しと誰の心を牛用  
 吾流ハ宋代の紹興年  
 我流在の漢帝を云々  
 其何の如くもやし  
 要すとも未熟を慮  
 法樹上の果實ハ現代  
 圃民々輩と云ふ聞か  
 の聖脈を結り之を塩  
 物せざるも人亦言ふ其  
 伊等ニ親女の多岐賞か  
 打破しん彼の是れ如き  
 十進也も身と後昆の國  
 賦の打破せざるもや  
 以由治上の天目的もや  
 海をのれ別醒の神靈  
 之也聞か照鑑あらま  
 一人信命と志識  
 皇威治癒の圃民々輩の  
 誰れが以て大使命の重  
 任者と聞か聞か  
 滿腔の玉誠の意誠せざる  
 也言 志士も言ふ聞か  
 経解 尚且の釋法  
 世に其のあらざるも言  
 以て志士も言ふ聞か  
 神也 志士も言ふ聞か  
 貴公の日本帝國と稱  
 休一代之被忠公  
 女も言ふ聞かの崇敬心  
 必しも言ふ皇統の又も言  
 又言世も言ふ聞か

望月小太郎書簡 大隈重信宛

大正3年10月20日

早稲田大学図書館蔵/Waseda University Library

イ14-B299 -7

